



JTSU-E
JTSU ヒトデン情報局

2021年 7月1日

No.50

輸送サービス労組 東所沢電車区分会

今の職場環境で大丈夫か・・・？

緊急安全集会を開催！

参加者からさまざまな意見が

出されました！！

- 自分が経験したあぶないことは言おうとしているが、それがなかなかできなくなってきてしまった。
- 小さな事象を共有しあうことで、周りの人どうしが共有する。こういう小さな積み重ねが大事である。
- ライフサイクルで帰ってきて職場がすごく変わったなと感じた
- M-SHELL モデルをもとに危険を摘み取ることが大事だ。
- 気軽に話せる状況が必要である。
- 毎月、「いよいよジョブプロテが来るんじゃないか？」という不安をずっと抱えながら仕事をしている。
- 同じ事象でも、要因が全部違うのでは。主幹的なことを共有すべき。
- ヒヤリハットを会社が出さなくなってきた。詰所などに、ヒヤリハット共有ボードなどを設置してみてもは。
- きちんと報告しているのに日勤教育。そりゃ隠すようになるでしょ。
- コミュニケーションによる情報共有が大切だ。
- 柔軟な働き方では安全は守れない。反対する。さらに不安になる。
- 仕事が疲れるようになった。いろいろ考えてしまったりするし不安なことが多い。
- 休むところ、息を抜くところが大切である。
- 日勤教育中にいろいろ言われたが、乗務員は「取り替えの利くコマ扱い」と感じた。今後さらにきつくなる条件に耐えられるのであれば続けてください、という風にした。まだ、東所沢電車区の運転士は 30 分労働時間を延ばせますね、といわれた。さらに、ほかの業種はどうですか？とはっきり言われた。
- 疲れがたまっているのではないだろうか。交番にいるときは特に感じる。
- 集中できない環境・要因があるのではないだろうか
- 「軌道」という本を読んでいる。この中に書かれている職場環境と今の JR 東日本は本当によく似ている。
- CS 委員の定点、さらには消毒作業をしている。疑問を持つ。これ以上エスカレートしていけば、本来業務に支障がでる。
- 落ち着いて仕事できない。施策の出し方が不可抗力ではないか。続けたいという人の考えがないがしろだ。
- 詰所の今のレイアウトが話づらい。
- 施策のやり方、異動の仕方がよくわからない。
- 情報が全部タブレットできてしまうため、気づけないときがあつて困る。



緊急の集会にもかかわらず、

2 回の開催で 30 名を超える仲間が結集！！

みんなで働きやすい職場をつくる議論をしよう！！

安全を脅かす様々な事象が多発する中、東所沢電車区分会が「緊急安全集会」を開催！

安全第一で働きやすい職場を私たちの手で創り出そう！！